

平成 21 年 6 月 29 日現在

研究種目：基盤研究(C)
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18510225
 研究課題名(和文) 変貌するインドネシアの政治暴力～選挙・開発・紛争地にみる民主化のジレンマ
 研究課題名(英文) Changing Patterns of Political Violence in Indonesia: Dilemmas of Democratization in Elections, Development, and Conflict Areas
 研究代表者
 本名 純 (HONNA JUN)
 立命館大学・国際関係学部・准教授
 研究者番号：10330010

研究成果の概要：政治が民主化すると、政治暴力の形態はどのように変容するのか。インドネシアを事例として、3年間の実証研究を行った。本研究で明らかにしたことは暴力の拡散化の実態である。民主化以前には、政治暴力の中心的な担い手は軍であったが、民主化の結果、各地で「新たな」政治エリートが台頭し、彼らが「新たな」暴力の担い手を育て、そこに軍が間接的に関与する実態について、3つの政治局面（選挙・開発・紛争地）で確認した。この新たな政治エリートによる暴力の政治的リサイクルは、民主化の産物であり、そのロジックを理解することが、国際的な民主化支援や平和構築支援を行う際にも重要であることを、研究成果として国内外に発信した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	700,000	0	700,000
2007年度	500,000	150,000	650,000
2008年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1,700,000	300,000	2,000,000

研究分野：政治学、地域研究、国際関係論

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：インドネシア、民主化、紛争、選挙、暴力、治安

1. 研究開始当初の背景

(1)インドネシアでは、1998年のスハルト長期政権の崩壊以降、政治の民主化が進み、多様な政治アクターによる「競争の時代」に突入している。しかし、開放された政治の競争は、必ずしもインドネシアに平和と安定をもたらすものではなかった。アチェやパプアでの「分離独立運動」、マルクヤボソでの「宗教紛争」、カリマンタンでの「民族紛争」に見られるように、インドネシア各地で政治暴

力の拡大が顕著になった。なぜそうなるのか？民主化と暴力はどのような力学で連動しているのか？この問題意識が研究の背景にあった。

(2)これまでのインドネシアの紛争研究は、紛争地の研究が主流で、それは暴力の被害規模が大きくメディアも大々的に扱うため、地域研究者のみならず国際政治学者などにも強い関心を与え、その結果、研究蓄積も増えてきた。しかし、「非紛争地」における政治

暴力の実証研究は、これまでほとんどなかった。本研究の開始は、その問題意識からスタートした。

2. 研究の目的

本研究は、民主化時代のインドネシアの新たな政治暴力の形態を調査・分析し、持続的な平和構築に向けての課題を解明することを目的とした。その要点は、紛争地における暴力動員、地方都市の日常政治過程における暴力の効用、地方首長選挙における票動員と暴力の関係、という三つの射程を包括的に研究することであった。特に狙いは、上記の実態調査を通じて、インドネシアの民主化と政治暴力の発展力学を多角的に分析することにあった。

3. 研究の方法

研究の方法は、現地調査による実態の解明に重点を置いた。現地調査は3つの政治局面に分類して実施した。

【選挙政治と暴力】2005年に新たに導入された地方首長の直接選挙は、2006年までに250の自治体、すなわち全土の約半数の州・県・市で実施される。これらの選挙政治を調査し、どのような地方エリートが、どのような暴力集団を取り込んで、票の動員戦術を展開したのかについて明らかにしようと試みた。

【開発事業と暴力】地方政府予算が豊富な地方都市において、開発事業をめぐる政治過程に、どのような暴力効果が用いられているのかを明らかにしようと試みた。

【紛争と暴力】紛争に発展した地方において、どのような政治アクターが、どのようなリソース（資本、メディア、動員アイデンティティー）を駆使して暴力運動を導いていたのかを、地元の利権構造に注目しつつ明らかにしようと試みた。

4. 研究成果

本研究の成果は2006年から定期的に発信してきたが、特に最終年度の2008年は、3本の論文を国際ジャーナルに掲載し、民主化と暴力に関する研究を国際的にリードすることができたと認識している。その具体的内容と重要性は以下の通りである。

1. “The Peace Dividend,” *Inside Indonesia* で

は、アチェ和平の推進によって、暴力装置としての国軍にどのような変化が表れているかを議論したものであり、特に、国家安定の名の下に政治関与を長年続けてきた軍の正当性の基盤がなくなることで、今後の文民政治家にとっては政軍関係改革を進める絶好の機会になっていることを主張した。政治的民主化、ポスト紛争、そして国家暴力の関係を分析した点に意義・重要性があると考えた。

2. “Current Data on the Indonesian Military Elite,” *Indonesia* では、過去2年間における、インドネシア国軍の人事異動のミクロ分析を行い、そこから見えてくる特定将校の昇進の早さや世代交代の停滞について議論を提示した。士官学校での成績が重要な昇進ファクターになっている実態を解明し、その原因が、国家安定による紛争地経験の低下にある点をアピールできたことに意義があった。

3. “Instrumentalizing Pressures, Reinventing Mission,” *Indonesia* では、民主化によって役割削減を迫られる海軍の政治的駆け引きを分析した。海軍は、海の軍事脅威ではなく海洋犯罪という「海の暴力」が拡大していることに着目し、これへの対応を海軍の役割にすることで、様々な権限と政治的発言力の維持を図っている実態を分析した。脅威はいかに作られるか、という問題を解明することに意義と重要性があった。

以上を踏まえ、本研究の3年間の全体的な成果をまとめると、次の二つに集約される。

インドネシアの「紛争地」における政治暴力の研究は、多くの研究者が注目するトレンドであるが、「非紛争地」の日常政治における暴力の研究はほとんど進んでいない。とくに選挙や開発事業のプロセスに動員される暴力の形態が、民主化の推進に伴って多様化・洗練化している力学を明らかにする本研究は、国際的にも独創的であり、その成果は、インドネシアの民主化研究と紛争研究の双方に大きな貢献となったと考える。

政治暴力の発生と発展を、「選挙」「開発事業」「紛争」という三つの角度から分析する本研究は、これまでの個別的紛争事例研究では見えてこない共通力学を浮き彫りにした。その理解は、インドネシア全土で起きている政治権力の流動化を巨視的に把握する上で決定的に重要である。その知見は、地域研究の成果と国際協力の実践を結びつけるものであり、「民主化支援」「平和構築支援」「ガバナンス支援」といった企画の立案・実施過程で生かしていけると考える。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 11 件)

Jun Honna, “The Peace Dividend,” *Inside Indonesia*, 92, pp.1-3, 2008. 査読有

The Editor (drafted by Jun Honna), “Current Data on the Indonesian Military Elite, September 2005 – March 2008,” *Indonesia*, 85, pp.79-122, 2008. 査読有

本名純「平和な時代の国軍改革」『アジア研ワールドトレンド』154号、pp.13-15、2008年。査読無

本名純「日本の得意分野を生かした協力を：テロ対策と海賊対策」『外交フォーラム』10月号、pp.48-50、2008年。査読無

Jun Honna, “Instrumentalizing Pressures, Reinventing Mission: Indonesian Navy Battles for Turf in the Age of *Reformasi*,” *Indonesia*, 86, pp.63-80, 2008. 査読有

本名純「ユドヨノ大統領と民主化第二フェーズ：政治改革・紛争後復興・首長選挙を中心に」『東南アジア研究』45巻1号、2007年、pp.12-36。査読有

本名純「マフィア・国家・安全保障：東南アジアにおける越境犯罪の政治分析」『国際政治』149巻、2007年、pp.127-140。査読有

Jun Honna, “Local Civil-Military Relations during the First Phase of Democratic Transition, 1999-2004: A Comparison of West, Central and East Java,” *Indonesia*, 82, pp.75-96, 2008. 査読有

本名純「深刻化する東アジアの越境犯罪」『治安フォーラム』12月号、2006年、pp.60-70。査読無

本名純「インドネシア/ODAによる初の「武器」供与と海賊対策」『世界週報』6月27日号、2006年、pp.52-53。査読無

本名純「インドネシア/陸軍将官による武器隠匿事件」『世界週報』11月7日号、2006年、pp.52-53。査読無

[学会発表](計 16 件)

本名純「インドネシア・国軍改革と人事の政治：ユドヨノ政権を中心に」東南アジア学会関西地区例会、2008年3月1日、京都大学。

Jun Honna, “Towards a New Paradigm for the Regional Maritime Security Governance,” ASEAN ISIS-JICA Research Project, “Maintaining Human Security in ASEAN Integration,” 18 June 2008, Manila.

本名純「非伝統的安全保障としての越境犯罪：人身売買を中心に」東南アジア世界の光と影、2008年9月2日、京都大学東南アジア

研究所。

Jun Honna, “Constructing Transnational Crime Threat in the Post-Suharto State: Security Sector Improvement or Trojan Horse for Anti-Reform?,” International Workshop, “The State and Illegality in Indonesia,” 22-24 September 2008, The Australian National University.

Jun Honna, “Indonesia-Japan Strategic Partnership in the Political and Security Field,” 日本大使館主催『日インドネシア 50周年記念セミナー』、2008年11月3日、ジャカルタ日本博覧会会場。

Jun Honna, “The Network of Drug-Trafficking and Politics of ‘War on Drugs’ in Southeast Asia: Insights from Indonesia,” International Workshop, “Political Network in Asia,” organized by GRIPS Global COE Program, 28 February 2008, 政策研究大学院大学。

Jun Honna, “Japan’s External Threat Perceptions and Role in Regional Security,” International Conference on “The Philippines and Japan in East Asia and the World,” 19-20 March 2009, The University of the Philippines’s Asia Center.

Jun Honna, “Crime at Sea and Human Insecurity in Southeast Asia: Toward a New Paradigm of Maritime Security Cooperation,” International Symposium on Human Security in ASEAN Integration, 30 March 2009, organized by JICA Research Institute.

本名純「東アジアの越境犯罪に対する海上保安分野の国際協力の重要性」海上保安学校、2007年2月7日。

Jun Honna, “Combating Maritime Transnational Crime in Asia: Governance at Sea and Regional Cooperation among Law Enforcement Agencies,” 3rd Japan-Indonesia Maritime Security Dialogue, 17 December 2007, Batam.

本名純「東アジアにおける越境犯罪に対する日台海上保安協力の重要性」第2回日台周辺海域における海上保安フォーラム、2007年11月29日、台湾福華国際文教会館。

Jun Honna, “Overall Architecture of Community Building in East Asia: Regional Architectures for Non-Traditional Security and Environmental Cooperation in East Asia,” 5th Annual Conference of Network of East Asian Think-Tanks (NEAT), 21 August 2007, Singapore.

Jun Honna, “Politics of Security Sector Reform in Indonesia,” International Workshop: “Security and Violence in Contemporary Southeast Asia,” 18-19 July 2007, Chaing Rai, Thailand.

Jun Honna, “The Legacy of New Order Military in Indonesia’s Local Politics,” Workshop

of (In)formal Violence and Democratization in Southeast Asia [JSPS Core University Program], 5 May 2007, Kyoto University.

本名純「東アジアの非伝統的安全保障問題」アジアの課題日本、2007年4月20日、総合研究開発機構。

Jun Honna, “Transnational Crime as a Non-Traditional Security Issue: Challenges and Initiatives of East Asian Community,” the Working Group Meeting, Network of East Asian Think-Tanks, 24-25 April 2006, Japan International Forum, Tokyo.

〔図書〕(計4件)

桃木至朗ほか = 編『新版 東南アジアを知る辞典』平凡社 2008年、7項目(約5ページ)執筆。

Marco Bunte and Andreas Ufen ed., *Democratization in Post-Suharto Indonesia*, Routledge, 2008, pp.226-247.

Giorgio Shani, et.al, *Protecting Human Security in a Post-9/11 World: Critical and Global Insights*, Palgrave Macmillan, 2007, pp.97-114.

Jun Honna, *Serdadu Memburu Hantu: Ideologi Kewaspadaan di Senjakala Kekuasaan Orba*, Center for Information Analysis, 2006, 143p.

6 . 研究組織

(1)研究代表者

本名 純 (HONNA JUN)

立命館大学・国際関係学部・准教授

研究者番号：10330010

(2)研究分担者

(3)連携研究者